

# 人権擁護大会に向けた日弁連の催し

## 揺れるアメリカの死刑制度

### 死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

日本弁護士連合会（日弁連）は秋の人権擁護大会（於・宮崎）で「20世紀 日本に死刑は必要か——死刑執行停止法の制定と死刑制度の未来をめぐって」と題したシンポジウムを行なうことを決めました。意外なことですが、日弁連の人権擁護大会で死刑の問題が正面から取り上げられるのは初めてのことだそうです。

そして大会に先立ち、全国各地で連続的にプレ・シンポジウムが開催されます。東京では、五月二九日（土曜・午後一時～）に霞ヶ関の弁護士会館2階講堂で「揺れるアメリカの死刑制度」というテーマで開催されます。一般市民も参加自由な、入場無料の催しですので、ぜひ、多くの方に足を運んでほしいと思います。アメリカで少年死刑囚の写真を撮り続けている方や、死刑執行の停止を求める犯罪被害者遺族の会の方たちをお招きする予定だそうです。

☆☆☆

アメリカでは現在、連邦と38の州が死刑制度を維持し、12の州とコロンビア特別区（ワシントンDC）では死刑が廃止されています。近年は執行も増加傾向にあるアメリカですが、死刑に反対する声も高く、まさに世論を二分する議論が闘わされているようすは、ハリウッド製の映画などでもうかがい知ることができます。アメリカでこうした議論が盛り上がる背景には、死刑に関する情報が日本に比べてはるかにオープンにされている事情があるでしょう。死刑囚自らがテレビ出演などして冤罪を訴えるようなことは日本では考えられません。

☆☆☆

もうひとつ、催しの紹介をします。「死刑廃止条約の批准を求めるフォーラム90」の主催で、ハワイ大学のデビッド・ジョンソン氏を招いた「アメリカと日本における死刑」というテーマでのセミナーが五月八日（土曜・午後二時～）に開催されます。（明治大学研究棟4階第一会議室にて／御茶ノ水明治大学リバティタワーの奥／参加費五〇〇円）ジョンソン氏はフルブライトの留学生として来日し、日本の死刑について調査・研究されてきました。米国の実態、米国人の目から見た日本の実態を、私たちもこの機会に学びたいと思います。